

新元号に、新しい紙幣の図柄の発表が相次いでありました。新たな気持ちで今年度も頑張りましょう！

現在会員登録数2,926人さま。次号は5月21日発行の予定です／

＋----- ◆◆◆ 目次 ◆◆◆ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 104

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■-----
【1】お知らせ

● 国際講演会「ベルギーの児童文学」の報告集を販売しています

昨年5月に開催した国際講演会「ベルギーの児童文学」の報告集。ワリー・デ・ドンケルさん（作家、国際児童図書評議会 前会長）の講演「ベルギーの児童文学ー私の心に根ざす哲学」と、野坂悦子さん（作家、翻訳家）の講演「ベルギーの児童文学とは」を記録しています。

発行：当財団 2019年3月 A4判 29頁 800円＋税

● 講演会「ふしぎの描き方」の報告集を販売しています

昨年11月に開催した講演会「ふしぎの描き方ーあまんきみこ&富安陽子の世界ー」の報告集。講師それぞれにとっての「ふしぎ」についての講演と、対談「『ふしぎ』の描き方」を記録しています。

発行：当財団 2019年3月 A4判 41頁 1000円＋税

詳細は ↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/05_publication/index.html#hanbai

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■-----
【2】コラム

《1》 この本読んだ？ Yasuko's & Yukiko's Talk

『夢見る人』 パム・ムニョス・ライアン/作 ピーター・シス/絵 原田勝
/訳 岩波書店 2019年2月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：落ちていた鍵や貝殻や松ぼっくりや言葉を集めることが好きで、孤独を愛するネフタリは、兄と妹と思いやり深い継母ママードレと、ネフタリを医者か歯医者にしたいと決めつけている威圧的な父親と住んでいる。家族みんなが父親におびえながらも、ネフタリは自分の好きなことを守り抜き、白鳥の死を体験したり、叔父の新聞社で手伝いをしたりする。1971年にノーベル文学賞を受賞したチリの詩人、パブロ・ネルーダの子ども時代を描いた伝記的小説。

F：小説でありながら、詩的な言葉が多く使われ、詩を読んでいる感じがしました。そして、ピーター・シスの絵がすばらしく、文と一体になって『夢見る人』の物語を作っていると感じました。

Y：「雨」「泥」「川」「海」などの章の冒頭に、シスのコマ絵があって、読む前には、物語を予感させ、読んでから絵を見ると、物語世界が広がり深まるような構成になっています。絵は必ずしも直接的に関係あるわけではなく、本に翼がついている絵があるなど、空想的で詩的でした。

F：横書きで緑色のインクが使われているのも特別感がありました。そして、章立てにもあるように、ネフタリが自然の力で、体も心も少しずつ強くなっていくのを読むことができました。ただ、この作品には、ネフタリの変化だけではなく、変わらないものも描かれています。想像する力＝夢見る力です。

Y：幼い頃から父親にぼうっと空想にふけるなどと言われてもそのことだけは頑なにやめません。

F：体は弱くても、空想することや好きな物を集めることは決してあきらめない。その心の底に秘めた強さがあったからこそ、詩人になったのだと思いました。

Y：ネフタリは威圧的な父親への抵抗力を少しずつ手に入れ、叔父が先住民であるマプチュ族を守るために新聞を発行し続けるのを手伝います。「火は言葉から生まれるのか？それとも、言葉が火から生まれるのか？」(p. 228)という文があるように権力と闘う武器としての言葉ということもこの作品から読み取れます。

F：このような子ども時代が、詩作をしながら権力と闘い続けるネルーダの生涯とつながっています。伝記を読むと詩が読みたくなりました。巻末に「父」を含むパブロ・ネルーダの詩が翻訳されていたのもうれしかったです。

* 今回のゲストは武庫川女子大学准教授の福本由紀子（F）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第44回「セロ弾きのゴーシュ」
トマトの枝と甘藍の虫

前々回、前回(当メルマガ NO.102、103)のつづきで、「セロ弾きのゴーシュ」について。

〈家といってもそれは町はずれの川ばたにあるこわれた水車小屋で、ゴーシュはそこにたった一人ですんでいて午前中は小屋のまわりの小さな畑でトマトの枝をきったり甘藍(キャベジ)の虫をひろったりしてひるすぎになるといつも出て行っていたのです。〉

ゴーシュは、午前中は水車小屋のまわりの畑のめんどろを見ていたといいますが、実は半分は、あるいは、基本的には農民ということになります。このことに気づいたのは、以前、私のゼミで勉強していたYさん。いまは、NHKの「朝ドラ」などにも出演する女優です。

トマトもキャベジ(キャベツ)も西洋野菜で、日本では明治以降に栽培がさかんになりました。

宮沢賢治が農学校教師の職をすてて農民生活に入ったのは1926年、30歳の春でした。宮沢家の別宅にひとりで住んで、農耕生活をはじめました。そこへ農学校時代の教え子などを招きこんで、農業技術を教えるほか科学やエスペラントを講義し、「農民芸術論」も講じたのです。これが「羅須地人協会」の活動です。

「おれたちはみな農民である ずるぶん忙しく仕事もつらい/もっと明るく生き生きと生活をする道を見付けたい」「職業芸術家は一度亡びねばならぬ/誰人もみな芸術家たる感受をなせ」と記した「農民芸術概論綱要」は、講義をもとに、あとでまとめられたのではないかと考えられています。

「羅須地人協会」では、レコード・コンサートも行われたし、賢治がチェロを持ちこんで練習もしました。賢治のチェロは、あまり上達しなかったらしいのですが……。

農民でもあるセロ弾きのゴーシュは、まさに賢治が提唱した「農民芸術」の担い手といえるでしょう。しかし、ゴーシュが属する金星音楽団の楽長は、「音楽を専門にやっているぼくらがあの金沓鍛冶だの砂糖屋の丁稚なんかの寄り集りに負けてしまったらいったいわれわれの面目はどうなるんだ。」といえます。むしろ、楽長のいう「寄り集り」のほうが「羅須地人協会」の実際に近かったのでしょうか。(馬車別当)

(本文の引用は、角川文庫版『セロ弾きのゴーシュ』によりました。)

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 104

その11 さまざまなご質問にお答えします (22) おはなしについて6

質問：昔話を語る時、書かれている言葉をそのまま覚える必要がありますか。

(前回のつづきです)

前回は、翻訳された昔話を語るときの再話方法について考えましたが、今回はおはなしの編集について考えたいと思います。これは、おはなしを語り始めた人ではなく、おはなしを長く語ってきた人たちを対象にしています。

おはなしの中には、部分的にまわりくどかったり、説明が長すぎて子どもが退屈してしまったりする箇所はあるものの、全体としてはとてもおもしろく、子どもに伝えたいというものもあります。

異論があるかもしれませんが、そんな場合、私は削ったり、言い換えたりして語れば良いと思っています。それは、おはなしは語り継がれていくものであり、1回1回が語り手と聞き手のコミュニケーションとして成立するものだからです。

一方で、語り手は、語り継がれたものを伝えるという役割を持っており、むやみに変更していいわけでは、もちろんありません。語り継ぐべきものは何であるのか、ことばの響き、繰り返し、主人公の行動、道具など、その昔話になくってはならないものを読み取ることが大切です。

そのためには、昔話について、参考書を読み、グループ内で勉強し続けることが大切です。自分が、声で物語文化を伝える人＝語り手として、何を伝えていくのかは永遠の課題ですが、それを考えることこそが興味深く、語り手としての成長につながるのです。

* この質問への答えは今回で終わりです。ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

《4》 行って来ました！

国立民族学博物館で5月28日まで開催されている特別展「子ども／おもちゃの博覧会」に行ってきました。現在、国立民族学博物館が所蔵する、収集家の多田敏捷氏が収集した約6万点におよぶ「時代玩具コレクション」を中心に、江戸時代から昭和40年代の玩具千点以上が、大きく6つのテーマに分けて、時代の流れに合わせて展示されています。

江戸時代の玩具は、玩具にも世相が反映される明治時代以降とは異なり、子どもの誕生や健やかな成長を願うものだったそうです。刺繍が美しい手毬や、金箔が貼られたきれいな貝合わせの貝がありました。

メンコは時代を通して数多く展示されていました。江戸時代の素焼きの泥メンコは顔や文様などが型押しされた直径2センチくらいの小さいものでした。明治前期の鉛メンコは毒性のため製造中止になったそうです。紙のメンコは、丸メンコ、角メンコ、相撲メンコなど形がいろいろあり、武将や軍人、正チャンやミッキーマウスなどのマンガ、ウルトラマンなど、時代によって絵柄もさまざまでした。

人形にもいろんな種類があり、素朴な土人形やセルロイド製の七福神、ゴム製やブリキ製のものなど、初めてみるものがいっぱいありました。紙を切り抜いて遊ぶせ替え人形は、明治時代のものは、人形を前と後ろの着物で挟むようになっていました。抱いて遊ぶ人形は、姉様人形、日本人形、鬢替え人形、眠り人形、そしてリカちゃんまであり、どの人形もきっと持ち主に可愛がられていたのだろうなと思いました。

他にも、双六、乗り物、日光写真、ぬりえ、うつし絵、ままごと道具、手風

琴などの楽器、おはじきなど、心ひかれるおもちゃがいっぱいで、とても楽しかったです。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 新刊書研究会「2018年子どもの本」

昨年出版された児童書を通して子どもの本の世界の一端に触れてみませんか。

講師：土居安子（大阪国際児童文学振興財団 総括専門員）

日時：5月18日（土）午後1時～4時

会場：堺市立南図書館（堺市南区茶山台）

資料代：有料

主催：子どもの読書と教育を考える会

● 資料小展示「幻の児童雑誌『カシコイ』～学年誌が描いた子ども文化～」

昭和7年に創刊された学年別児童雑誌『カシコイ』（精文館）に掲載された貴重な童画の原画を、戦前戦後に出版された数々の学年誌とともに紹介します。

会期：開催中～6月30日（日）休館日あり 入館無料

会場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館（東大阪市荒本）

主催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

協力：北村好子、行司千絵、京都国際マンガミュージアム、大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号の【1】お知らせで紹介した国際講演会報告集「ベルギーの児童文学」を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.104 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は5月10日（金）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

今年の桜は頑張った！近年、地球温暖化現象の影響か、開花の時期が早まってきたが、今年は開花情報が出された途端に厳しい花冷えが襲い、つぼみもふるえ上がったのだろう。おかげで、満開の桜のもとでの入学式。やはり子どもたちの笑顔と桜はよく似合う。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

- 配信の登録・解除・変更は、
http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
